

主な内容

特集！戦後70年「戦時下の独協生を顧みる」…… 畦森公望 ……	(1)
平成27年度 通常総会・懇親会 報告 ……	(4)
総会特別講演会 …… 昭和51年卒 永島和幸 ……	(5)
役員紹介 ……	(5)
寄付金納入者一覧 ……	(5)
獨協祭参加報告 …… 広報委員 沖山秀司 ……	(6)
獨協祭に参加して …… 昭和20年卒 牧 豊 ……	(6)
獨協ぶらり旅 …… 広報委員 谷田貝茂雄 ……	(9)
<目白だより>	
演劇部ふたたびソウルで上演 …… 顧問 柳本 博 ……	(10)
柔道部カイザー報告 …… 顧問 萩野元祐 ……	(10)
歴史研究部 …… 顧問 兼田信一郎 ……	(11)
今年の古希の皆さんを紹介します …… 昭和39年卒 柳原克忠 ……	(11)
クラス会だより ……	(12)
私の近況 ……	(20)
昭和18年第52回卒業記念アルバム 寄贈 ……	(23)
昭和20年卒「故根本達久氏の追悼文集」寄贈 ……	(24)
編集後記 ……	(24)

<http://www.dokkyo-mejiro.com>

獨協同窓会

検索



題字・天野貞祐

第85号

平成27年12月20日発行

発行所 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1

TEL / FAX 03 (3946) 6352 (直通)

獨協同窓会 発行責任者 浅野 一

特集！

戦後70年「戦時下の独協生を顧みる」

— 我ら昭和20年卒・現役生との懇談会に参加して —

畦森公望

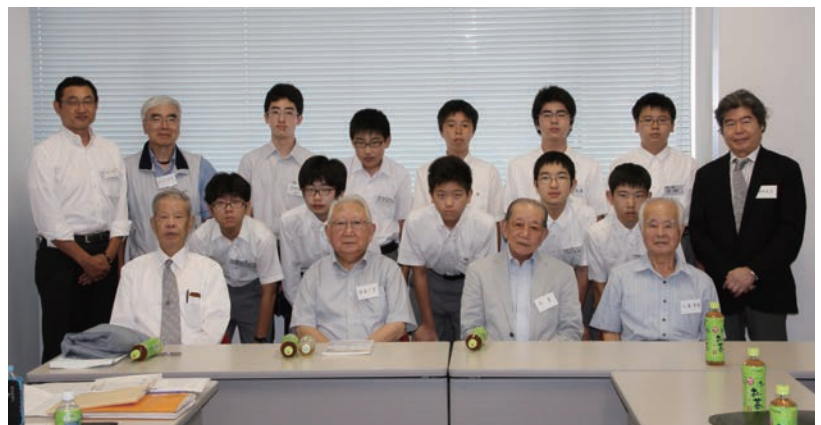
独協史上、幻と消えゆく旧制独逸学協会中学校

昭和20年5卒の小史

当年度ドイツ語科クラス会を「芽城会」と称す

- 昭和12年 小学4年 日支事変勃発
- 昭和13年 小学5年 戦傷者慰問
- 昭和14年 小学6年 出征兵士見送り 等戦時色濃くなる
- 昭和15年 独協入学 独乙語科 3クラス
英語科 2クラス
- 昭和16年 中学2年 12月8日太平洋戦争に突入
教練、厳しさを増す
- 昭和17年 中学3年
 - ・4月18日(土)正午頃、米軍機1機による初空襲、早稲田中学校庭に爆弾投下。被害公表されず、そのまま中国へ逃避。不甲斐なし。
 - ・福生飛行場の壕掘りとモッコ※1による土運びに動員
 - ・三八式歩兵銃を担ぎ砂詰め※2の背負袋銃剣で装備し40km夜行軍。
- 昭和18年 中学4年

- ・習志野練兵場において野宮教練。空砲を使い射撃訓練、匍匐訓練。配属将校によるヒステリックな全員制裁。生まれて初めてタニシを食す。
- ・体力検定
砂嚢担ぎ。手榴弾投擲等
- ・後半より勤勞動員令により軍需工場へ交替で夜勤
- 昭和19年 中学5年
 - ・戦況ますます悪化。特攻隊、集団疎開
 - ・工場勤務が平素化
 - ・予科練、陸軍少年兵とに入隊者する者あり。4年



昭和20年5卒同窓生と歴史研究部(8月21日)

前列左から、黒沼監事、畦森氏、牧氏、佐藤氏
後列左端 兼田先生、その隣 中村監事、右端 柳原副会長

修了で上級学校へ進学する者もあり。

昭和 20 年 卒業式ナシ

・東京下町の空襲。原爆投下、無条件降伏。外地からの引き揚げ、日本中が大変動

<雑 感>

昔を偲うのではないが懐かしい

*ゲートル

私達の中 3 頃からゲートルの無い日常は少なかった。独協は黒のゲートル（兵隊さんはカーキ色）紺の制服に黒のゲートルはなかなか精悍な感じ。ゲートルの巻き方は上級生になるとスッキリしてくる。下級生はグズグズになり易い。巻き脚絆である。折り返しの山がキチッと揃っていないと恰好が悪い。40km 行軍や日光への軍装行軍などはゲートルがズレては困る。上級生で少タイカレている人は臍の下の方にズラして巻いていた。ハグレ者の粋がりだったのだろう。教練で校庭や草原を這いずり廻るにはゲートルが欠かせない。誰が考えたものやら使い様によっては繃帯代りにもなるし、止血帯にもなる。

海軍の陸戦隊では布を巻いて編み上げ靴のようにフックで止める。湘南海岸などの砂浜で訓練しているとズボンと脚絆（海軍ではキャハンと呼ぶ）の内側に蚤がいっぱい溜まる。

*兵器庫

売店の奥にあった兵器庫の扉をあけると銃のテレピン油の臭いが漂う。この臭いは懐かしい。三八式だけでは足りない旧村田銃というのも並んでいた。三八歩兵銃も命中率は悪くない。照門と照星を合せ、射撃してみて修正をする。昔の銃はそんな物だ。夫々に癖がある。自動小銃は機関銃のように撫で切りだ。あの戦争は兵站だけでも完敗であった。軽機関銃も 2 機あった。体の大きい仲間がこれを担ぐ。優等生は隊長の役でサーベルを下げる。行軍も楽チンである。戸山ヶ原で度々観兵式の如き行事が行われたが、この時も銃を担いで歩いてゆく。今にして想い出すが不思議にブツ倒れた者は居なかったようだ。

兎に角、よく歩き、よく這いずった。

*武道

本校舎に囲まれた内側に柔道場、校舎と向き合う通り側に別棟で剣道場、図書室、絵画室があった。柔道は田島師範、その弟子の佐藤師範であった。また剣道は今泉師範である。生徒は全員どちらかを決めて稽古をしなければならなかった。必修である。嫌とは云えない。暑中稽古、寒稽古は当然毎年である。特に寒稽古は少々辛かった。それこそ味爽に家を出る。母親は飯を喰わせねばならない。空には未だ星が瞬いている。道場に集る頃、白々と明ける。寒い、凍える。あゝって我慢も憶えたのだろう。道場で落ちる奴もいる。「落ちる」というのは失神すること、首締めで頸動脈を圧迫されて起る。学習院が近かったので中等部とよく練習試合が行われた。柔道も剣道もこうした交流があった。稽古の途中で高等部の学生が出てきて独協生をやっつける、よく憤慨したものだ。戦後、田島

師範と講道館でお会いした時、師範は子供クラスの指導をして居られた。今泉師範は常に羽織袴の姿で古武士然として居られた。然しその弟子として来た男が悪かった。無智で粗暴、多くの仲間がやられた。人は若いうちに我慢を覚えることも大切だ。だが「して良い我慢と無駄な我慢」を知ることが大切である。兎もあれ全員の思い出が旧校舎と新校舎に散らばっていた。当時の悔しかったこと、辛かったことさえ時が懐旧へと変えてくれる。

*恨

昔は中学 4 年修了で上級学校への受験が可能であった。旧制高校（一高・二高……）、大学予科、各種専門学校、陸・海軍士官養成校、少し年齢が下の陸軍幼年学校、海軍予科練、陸・海軍の少年兵養成の隊、などが多数あった。

私達の頃も 4 年修了で上に進んだ努力家・秀才・情熱家も多かった。

地方の学校へ行った者、学徒動員で工場で働いていた者、陸・海軍へ行った者、そのうちの数多くの仲間達が空襲で家・家族を失った。

敗戦、復員^{※4}、家・家族を失った仲間達の多くが家を再建するため、生計のために学業を放棄せざるを得なかった。まことに勿体ないことだった。本人達の苦衷は察するに余りある。然し、永い年月をかけ復興をした者、不遇のうちに去った者も少なくない。戦争は運・不運をも左右してゐる。

私達の中に台湾籍の友人が居た。その一人が陳以文という。その彼が独協に入学した時景山雅文と名乗った。眼がクリクリとした明るい奴で、誰からも好かれていた。彼は 4 年の動員途中で陸軍の少年飛行兵に志願、入隊した。出発前夜、下宿の家族、友人、造兵廠で働く親切な小母さん等が集り壮行会を開いた。その後の消息は勿論機密保持のため不明であったが、戦後何年かたって彼から消息を伝えてきた。入隊後満州へ行かされそのままソ連軍に捕虜・シベリアの極地で 3 年間の抑留生活を送り、漸く日本へ。その引き揚げ船が日本に着いたら、彼のみ下船を許されなかった。台湾国籍という理由であった。兄弟が日本に居るのに。彼は涙を吞んで台湾に帰った。彼は述懐する。「行く時は日本人、帰ると国籍が変わった」本当に寂しく悲しかったと語る。完全な、それ以上に日本人らしかった彼。初めての再会の時涙を流しながら手を握り合った。その後芽城会とも交流が続き、仲間達も訪台したりして観菓子を偲んでいたが、彼も彼岸へ行ってしまった。戦争は大切な人達を沢山失い、心をも傷つけてしまう。戦争は何も残さない、残るのは悲しみ、後悔である。

*誇

私達の仲間は、文学・音楽の愛好者が非常に多かった。1、2 年の頃より世界文学全集、日本文学全集等に親しみ、中には小林多喜二まで隠れ読む者、仲間の家に集ってクラシックに酔い痴れる者、なかなか多感な連中が多かったのである。

日比谷図書館などでの読書三昧、寄席で名人芸にウットリ、工作に没頭、映画館通いの者、等々で情感豊かで多彩な仲間が多かった。先輩達の中にも多才な人が多かったらしい。先生達をコキ下ろした数え唄や

青春に憶れる替え唄まで伝わってきた。世は急速に軍団主義が高まるのだが、独協生には、というより私達には妙に醒めた小空間があったのではなからうか。ナショナルリズムリベラリズムを心の中で同居させながら、ほど良く調和させていたのだろう。それは意識せず自然（ジネン）に育ったとしか思えない。これこそ独協なればこそ、或いは独協生らしい、と今更に思う。他校とは異なる一つの文化であった。これは他校を卒業した友人と話したことで、そう断言出来る。

私達が入学した頃、東京の私立中学御三家は独協・開成・麻布中であった。現在は国立大学への進学ランクは二校より低いと思うが、独協にはもともと高級役人や財界人を作るのが建学の精神ではなかったと思う。古風と云えば「豊かな、理性ある人間を作る」のが目的ではなかったらうか。

芽城会の仲間で古典文学に造詣のある友人が二人居る。その一人が記念誌の中で「同級生の一人一人が mein guter Kamerad^{※5}であるという気持ちを続けた」と述べていたが、皆の思いも同じだと思う。本人は既に過去形になってしまったが、もう一人は健在で古文書の研究で一家を成している。そんな戦友たちの姿が少しずつ消えて淋しくなったが、生き残りの私達の胸に、独協時代の彼等が昔の姿の儘時折り訪ねてくれる。

※1 モッコ、畚と書く

縄などを編み、物を運ぶ。主に天秤棒を通し二人で担いで土や石を運ぶ道具。

※2 背負袋（セオイブクロ）

巾の広い布を筒状に縫い合わせ、肩から反対側の脇に掛け胸前で結ぶ。中学の頃は握り飯を入れて行軍。色は黒。

※3 勤労働員

学生生徒を動員し、軍需工場等で働かせた。動員令で強制。

独協の学徒動員で私達が経験した明・暗

不審な組み分け

ドイツ語科……1クラスのみ服部製作所（ハットリ組）

ドイツ語科……2クラス

英語科……2クラス 陸軍造兵廠

ハットリ組は劣悪な環境と待遇であった。改善の交渉まで行が改善されず未だにその惜しさ、恨みを忘れず、後遺症を残す。

組み分けはその後も解明されなかった。

※4 復員

戦時の編成から平時の編成に返すこと、招集した軍人の任務を解く。敗戦後・軍関係の学校を含むすべての軍人軍属が故郷へ帰るのをすべて復員

※5 戦友

ドイツ語 Kamerad 同窓者・仲間・戦友

私達の感情は戦友である。喜びも悲しみも共有し、飯も水も酒も煙火も分け合う仲間。故に戦中の困難を共有した仲間で感覚的に私達は戦友と思う。但し、人の心を傷つける者は戦友に非ず。軍歌「戦友」は私達以上の年輩の者は皆なじんで居る。反戦歌として軍は禁止。哀しい抒情歌といえる。

歴史研究部との懇談会

畦 森 公 望

日 時 平成 27 年 8 月 21 日

場 所 小会議室

出席者 兼田先生(社会科教諭)・高木先生(数学科教諭)

昭和20年 5 卒独乙語科

黒沼昭夫監事・佐藤徳重・牧 豊

畦森公望

同窓会 柳原副会長・中村監事

このたび、歴史研究部の生徒達に戦時中の独協生活を説明し、そのことを通じて「戦争」というものの実像に迫るという趣旨での懇談会が開催された。我々OBと現役生合同によるこのような勉強会は初めての企画だそう。顧問の兼田先生には感謝したい。

当日、独協生は高校生1人、中学生9人であった。

戦後70年、多くのメディアにより、様々な記録が報道されているので、彼等も関心があれば見聞きしていると思う。然し日常では友人同志でも、家庭でも戦時中のことを話題にすることは無いと思う。そんな現状の中、後輩達との懇話会の相談を受けた時、私は正直なところ二の足を踏んだのである。「訊いてどうするの？ なんのために？」と、時代の違う彼等に私達の話が理解出来るだろうか。私達が子供の頃、親達や老人、先輩達から聞いた昔語りは、日清・日露の戦争であれ、軍隊の日常、あるいは地方の生活の困窮状態に至るまで殆ど理解することが出来たが、それは同じ文化、空気、土壌の中で過ごしたからである。然し、今の独協生はご両親が平和を謳歌する環境で生まれ育っている。更にその子供さん達である。お伽噺かもしれない。普段外で見ている少年達の言語、行動は異邦人の感じすらするのである。故に私は戦争中の語り部になるのを避けてきた。だが2～3日考えた末に思い直した。「他ならぬ独協の後輩達じゃないか、行きずりのの子供達じゃない」と。身びいきが先行したのだ。彼等は歴史に関心がある。ならば過去の文化や生活を知らねばならない。そのためなら少しは協力しよう、そんな気になっての当日だったのである。私は彼等に、歴史を学ぶ者は真実を知らねばならない、どんな理由があろうと脚色したり、権力に流されて事実から目を逸らしてはならない、と希望。更に牧君から3月10日の下町大空襲焼夷弾の仕組と説明、黒沼・佐藤両君から当時の中学の状況、教練フル装備での行軍、習志野練兵場の演習等の話をした。

昭和20年は5年生と4年生の同時卒業であった。4年生は1年繰り上げの卒業。唯「兵隊が足りない、若者が欲しい」から、それだけの理由である。当時の少年達は動員や教練…それだけでも勉強の時間を殺がれていた。教育を端折ってまで戦力にしたい、最早断末魔の状況であった。まさに教育史上の汚点だろう。その代わり当時の中学生は“独学”に励んだと思う。

生徒達も、やゝ硬さが取れてきた頃、時間も経過、理解できない単語や表現もあったと思うがあこの会合での先輩爺さん達との会話を折に触れ思い出し、日本近代史の裏側を認識出来れば結構である。教科書に載らない国民の苦悩を知り伝えねばならない。私達は独乙語科だったので Ich denke, also bin ich. と英語そのま

まで育った彼等にめめくったのだが、覚えていてくれるだろうか。

付記 一同窓会の一幹事としてのお願い—

同窓の若い方々にお願いしたいと思います。

ご承知の如く、会の運営は会費で賄っておりますが、会費の振り込み不足で歴代の会長・役員が苦慮しております。その解決の一方法として、クラス会をたまにしか開いていない年度がありましたら、是非毎年開催するよう努力して頂きたいのです。独協で過ごした中・高の6年間には大学とも異なる少年時代の様々な思い出がある筈です。その交友を再開したり、新しい友に

廻り合うこともあります。母校への愛着を甦らせて下さい。こんなお願いをする私達は、表記の如き20年5卒、クラス会を「芽城会」と称し、戦後70年の歩みを過ぎて参りました。その間クラス会を欠かさず気が付けば全員88歳、この寿を待たずに8割以上の仲間が彼岸にまいりました。来年は数少ない生き残りで彼等を偲ぶ法要を行う予定であります。

苦を共にしたクラス会は、また格別かもしれませんが、若い方々には私達が失ったエネルギーがあります。同窓会が健全ならば、母校も元気に発展すると思います。厚いご協力をお願い致します。

平成27年度 通常総会・懇親会 報告

通常総会

平成27年6月20日獨協中学・高校小講堂にて開催された。

議事に先立ち、今年度より新たな試みとして同窓生、学生を対象とした講演会「**ダヴィンチの観た心臓～しなやかなポンプを守る～**」（講師：心臓血管研究所付属病院 永島和幸（昭和51年卒））が行われ、多くの質問があり、好評を博した。①永島先生（右から4人目）を囲んで

続いて、平成26年度にスポーツで活躍した生徒（合計4人）②が紹介され、浅野会長より同窓会賞としてそれぞれ5千円分のギフト券が贈呈された。さらに、ご来賓の渡辺校長のご挨拶に引き続き、例年通り図書費として20万円が贈呈された。

総会開会にあたり今年度逝去された会員に黙祷が捧げられた。

開会宣言の後、浅野会長より会長就任後3年が経過し、財務状況の改善、組織の充実化など、会務が概ね順調に行われたことが報告され、さらに今後会員に向けて同窓会への関心をさらに高めていただくような様々な企画を考案し、実行していきたい。また、育英資金増資のための寄付募集についての報告があり、多くの会員にご理解、ご協力を頂いたことに感謝するとともに、今後とも寄付文化を根付かせていきたいと挨拶があった。

議事に入り、平成26年度事業報告、収支決算、続いて平成27年度事業計画案、収支予算案につきそれぞれ説明があり、いずれも異議なく承認された。

本年度は役員改正の年であり、浅野一会長と黒沼昭夫、中村昭美両監事および木原正義幹事長の留任が承認された。さらに、新副会長として柳原克忠さんが承認された。

懇親会

総会后、例年通り椿山荘にて開催された。浅野会長の挨拶に引き続き、ご来賓の渡辺校長よりご挨拶があった。

つづいて、同窓会の新入会員（新卒業生）の紹介、また今年米寿を迎えられた会員の方々が紹介③され、お礼やご挨拶をいただいた。次に獨協同窓会ドクターズクラブ、歯科医師獨協会より活動報告がなされた。今年も吹奏楽部の生徒による演奏④が場を盛り上げた。

会員、ご来賓、先生方との交流の場である同窓会の懇親会であるが、今回ご夫妻、初参加⑤もあり全体の参加者は増加しているが、会員の参加者が減少している。同窓会へのご理解とご支援をいただけるような活動と、さらに関心を引いていただける企画を立ててアピールしていく所存である。

最後に参加者全員で初めてハープの伴奏で校歌を斉唱し⑥、閉会となった。



総会特別講演会

ダヴィンチの観た心臓

～しなやかなポンプを守るために～

心臓血管研究所附属病院

医師 永島和幸 (昭和51年卒)

心臓は一日に10万回拍動し、8トンもの血液を送り出すしなやかなポンプです。心臓の破局は動脈硬化から始まります。また、脳卒中は心房細動という不整脈と関係があります。さらに、高齢化は弁が狭くなる弁膜症を増加させます。いずれの心臓病も生活の質を低下させてしまいます。しかし、我々はこれらを治すことはできません。手術やカテーテルによる治療などはしかたなく行う治療法です。我々はあくまでも患者さんと対等なパートナーです、大切なのはお互いの信頼と協力関係のもと一緒に治療を進めることです。また、医療は決して医師の単独行為ではなく、看護師、薬剤師、臨床検査技師などの医療従事者、さらに社会

の多くの職種との共同行為なのです。ダヴィンチは「心臓は血液を送るだけの物に過ぎない」と見抜いていました。しかし、循環器としての心臓はそうでも、私たちが自分を一番実感できる、精神状態と連動した“心の鏡”としての心臓も、大切なしなやかなポンプなのです。



講演中の永島先生

役員紹介

本年度の役員改正で新体制による同窓会運営がスタートした。



前列右から、黒沼、神山、浅野、柳原、木原、中村
後列右から、沖山、坂下、新井、谷口 (各氏)

会長	長	浅野	一	(昭和42年卒)	留任
副会長・広報委員長	柳原	克忠	(昭和39年卒)	新任	
幹事	長	木原	正義	(昭和47年卒)	留任
監事	黒沼	昭夫	(昭和20年卒)	留任	
監事	中村	昭美	(昭和41年卒)	留任	
総務委員長	新井	雅安	(昭和46年卒)	留任	
会計担当幹事	谷口	有三	(昭和53年卒)	留任	
会計担当幹事	坂下	真一郎	(昭和46年卒)	新任	
獨協祭担当幹事	沖山	秀司	(昭和49年卒)	留任	
H P 担当幹事	谷田	貝茂雄	(昭和51年卒)	留任	

寄付金納入者一覧 (「84号」以降)

竹内正和 (昭和18)	増田栄三 (昭和29)	宮崎輝雄 (昭和42)	法人 Ryokan Hasenberg (敬称略)
谷野龍夫 (昭和18)	池田彰男 (昭和31)	浅野一 (昭和42)	倉林正文 (昭和53)
栗原幸一 (昭和19)	ドイツ語クラス (昭和31)	齋藤幸一 (昭和43)	知念信昭 (昭和54)
齋藤謙治 (昭和19)	山岸郭郎 (昭和32)	千葉実 (昭和45)	鈴木一成 (昭和58)
田村康三 (昭和19)	高橋龍二 (昭和34)	西原潔 (昭和46)	藤野剛 (昭和62)
中嶋政信 (昭和20-4)	大沢悠里 (昭和34)	和田洋 (昭和46)	矢野剛司 (昭和62)
中井璋典 (昭和20)	福井晃 (昭和34)	上田善彦 (昭和47)	渡邊岳人 (昭和62)
神山一郎 (昭和20)	江澤明彦 (昭和34)	秋元雅之 (昭和48)	梶田利文 (平成01)
藤山俊彦 (昭和20)	金子宏 (昭和34)	小柳嘉一 (昭和48)	内山博人 (平成04)
鈴木清太郎 (昭和20)	里見治 (昭和35)	神田良介 (昭和49)	久保伊哉 (平成07)
梅田健一 (昭和20)	関口隆司 (昭和35)	木村孝 (昭和50)	高嶋正利 (平成19)
堀内經夫 (昭和21)	松島正浩 (昭和35)	神足吉明 (昭和50)	川久保輝 (平成23)
栗原忠聖 (昭和23)	木田宣男 (昭和36)	入野満哉 (昭和51)	竹内研人 (平成24)
多賀秀世 (昭和24)	黒石淳司 (昭和39)	鈴木敏彦 (昭和52)	田畑惣市郎 (平成25)
宮木俊二 (昭和24)	柳原克忠 (昭和39)	吉野英夫 (昭和52)	權守啓太 (平成25)
棚木光雄 (昭和26)	古希の会 (昭和39)	小倉弘章 (昭和53)	川久保慧 (平成26)
町田裕一 (昭和29)	中田徹男 (昭和40)	川久保洋 (昭和53)	伊藤勇貴 (平成27)
桑嶋陽一 (昭和29)	田丸操 (昭和42)		藤田友清 (平成27)

ご協力ありがとうございました。今後とも会費納入および財務拡充のご寄付をよろしくお願い申し上げます。

獨協祭参加報告

広報委員 沖山 秀司

獨協祭は9月19日（土）、20日（日）に開催され、資料展示を行いました。

今年は第二次世界大戦終結後70年、歴史研究部（中高生）は当時の獨協を紹介するテーマを立て、昭和20年3月卒業の同窓生4名に8月21日、インタビューを行いました（3ページ・11ページ参照）。これを機に同窓会展示に於いてもここにご紹介する5名の同窓生の戦時下の獨協生活を振り返る展示を中心に行いました。ここにその展示内容をご紹介します。

この他、ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部OB会、が例年同様に展示を行い、今回から卒業生が営む飲食店の紹介「獨協ぶらり旅」を始めました。

そして、古稀を迎えた同窓生の集いも紹介しました。今年も設営と後かたづけにご協力くださいました方々に感謝申し上げます。



同窓会展示室にご参集の、資料をご提供下さいました昭和20年卒の皆様。左から 畦森氏、神山氏、佐藤氏、黒沼氏、牧氏（9月19日）

獨協祭に参加して

昭和20年卒 牧 豊

このたび、私は戦後70年にあたり、8月21日に行われた同窓会と現役生の「歴史研究部」（顧問兼田信一郎先生）が企画した「戦時下の獨協生を語る」懇談会に同期仲間と一緒に参加した。（巻頭ページ・3ページ参照）

この懇談会を契機に、9月の獨協祭での同窓会企画「戦時下の獨協」を中心とした展示のために、我々同期会「芽城会」（昭和20年5卒組）から5人の仲間が協力し、昭和15年から20年までの間の獨協の様相を伝える、当時の写真・参考資料・木製の模型飛行機を、親愛なる獨協生へのメッセージと共に提出した。わずか1ヶ月間位でよくここまでまとめて、見やすく楽しい展示になったと驚かされた。関係諸氏へ感謝である。

さて、8月の懇談会では、OB夫々が戦時下において、勉強より軍事教練、勤労奉仕が強制されるなかで、向学心を強く持ち、厳しい統制下でも獨協に伝わる自由な伝統的校風は維持されており、都内でも高い進学校として誇りを持っていたことなど、その体験を熱く語った。い



学生服と国民服、中段右端は牧豊氏

ままでも私は、中学生や小学生に対して戦時下の生活や勉強のことなどをあちこちで話をしてきた。しかしながら、戦争の異常さ、特に勝つために手段を選ばず、ただ呆殺戮の応酬、そして戦場はもとより、故国に暮らす人々にも死と耐えがたい苦痛を与えたことなど実情を伝えることは難しい。だからこそ真摯に反省し学んでもらわなければならない。戦争では何も解決できないし、お互いに苦しみと憎しみしか残らない。戦争を二度と起こしてはならない事を、戦争体験者は話しつづけなければならない。

考えてみれば我々世代は、過酷な経験をし、試練を乗り越え今日の繁栄に寄与してきたとの自負もある。そして良き青春時代を過し、充実した人生を過ごせたことも、獨協中学に学び良き友を得て交流を深めたことが根底にある。そういう意味で、今回の獨協祭に於ける我々からの獨協生へのメッセージや当時の展示品を見て触れて、戦争と平和の繁栄について改めて考える絶好の機会であったと思っている。末筆ながら獨協中学・高等学校と獨協同窓会の益々の充実・発展を祈念する。



兵器庫の前で
当時校内には三八式歩兵銃などを保管する兵器庫が設けられ、軍事教練に使用しました。2列目の右から2人目は佐藤徳重氏、氏が海軍飛行予科練習生への入隊（10月）が決まった昭和18年8月に撮影

独協生へのお願い

～地獄の淵を覗いた私達だからこそ希望です～

今の時代が平和であるうちに、私達の出来なかった多くの事に挑戦して頂きたい。それは、独協で育ち上級学校に進む約10年間の学校生活を愉しむ事。更に、頭と体、そして心に沢山の栄養を蓄積し消化して行く事です。その栄養は、運動であり、趣味であり、読書と勉学であります。独協の長い歴史により洗練された教養と理性を持つ人になって頂きたい。独協で育った人達は、他校で育った人達と異なる「豊かな色合いの人間」になるだろうと確信します。多くの先人達のように。

畦森 公望



私の独協生の頃

神山 一郎

私が在籍したのは昭和15年4月～19年3月の4年間です。

昭和16年12月8日、真珠湾攻撃によってアメリカとの戦争が始まった時は中学2年生でした。あの日のラジオを聞いて、背筋がゾクッ！とした記憶があります。初めの真珠湾攻撃の頃は、新聞報道も事実を伝えていたのだろーと思います。昭和17年1月、2年生の3学期はまだ通常の勉強でした。

3年生の1学期(昭和17年4月)頃から徐々に授業の合間に軍隊色が入ってきました。体操の時間が軍事教練になりました。銃剣術と言って、銃の先に着けた剣で人を突き殺す訓練です。丸太に藁を巻き付けたものを人に見立てて、これに剣を突き立てるのです。私には、人を殺すなどと言う意識は全然ありませんでした。剣道の竹刀で相手の面や小手を打つのも同じ気持ちでした。英語は敵国語と言う事で英語の授業は減り、土曜の1時間のみになりました。土曜日はよく軍事教練の為、授業は休講になりました。私はドイツ語クラスであったため、一層英語が未熟となりました。アメリカ軍では、日本との戦争が始まってから日本語の授業を取り入れたと聞きましたが、敵国語だからと軽視した風潮を残念に思います。昭和18年4月、4年生になると勤労奉仕が始まりました。王子にある陸軍の倉庫に派遣され、物品の整理などを命令されまし



た。青梅方面では、飛行機を林の中へ格納する道路作りを命令され、従事しました。これらは、授業の代わりに終日従事しました。戦争の状況はラジオや新聞でしか知る事が出来ません。「我が軍大勝利！」との報道にただ喜んでいました。マスメディアの報道、現在は忠実に事実を語っているのでしょうか？街頭アンケートなどの結果の報道を聞くとき、そのソースを鵜のみにせず、真の事実を探る努力は今でも必要に思います。

独協生へのメッセージ

黒沼 昭夫

戦時中の在学、訓練・鍛錬の毎日で、武道は寒稽古、暑中稽古、・・・・

そして軍事教練による行軍では、府中の大國魂神社へ、日光戦場ヶ原へ、また習志野練兵場における野営など、大変な事が続きましたが、明るく過ごしました。昭和19年、4学年修了時に米沢高等工業学校(現山形大学工学部)へ進学しました。そこは、蛮カラな校風で意気盛んでした。空腹に加えストームのため勉強に集中出来ませんでした。

学徒動員では保土ヶ谷化学郡山工場、江戸川化学山北工場にて勤務し終戦を向かえました。その後、学校に戻るも、食糧事情が悪く勉強に集中出来ませんでした。昭和22年、製薬会社に勤め研究所・工場にて新薬の創出に携わり、放射性医薬品も扱い、私たちは戦後の復興、日本経済の高度成長に中心的役割を果たしました。独協学園も敗戦後存亡の危機に瀕しましたが、多くの人達の努力によって今日を築きあげた訳です。皆さんは、先人の功を確かめ、自ら立派な人間に育たれるよう切望します。

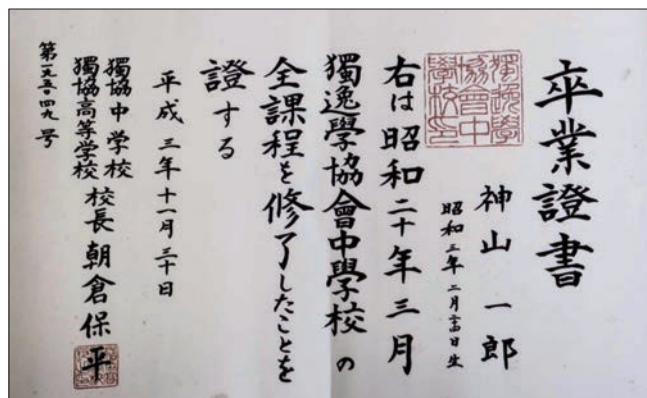


私の青春

佐藤 徳重

昭和18年10月1日 中学4年生時に海軍飛行予科練習生として三重海軍航空隊に入隊するため、独協を後にしました。一緒に中島、矢島、森田、の三名が13期前期練習生として共に入隊。その後、12月には13期後期練習生として

多くの志願者が入隊して来ました。当時、陸軍将校が各学校に配属され週に何日か軍事教練が行われていました。英語は敵性語として禁止され、煙草「ゴールデンバット」は「金蝙蝠」と変名されました。10ヶ月で予科練習生を卒業し、昭和19年8月からは茨城県の谷田部航空隊勤務。そこで初めて複葉の練習機「赤とんぼ」=93式中間練習機による飛行体験が始まりました。ここは予科練習生時代とは異なりハードワーク、午前中の飛行作業に続き、午後は座学の毎日でした。飛行機及びその作業に関する用語は全て英語が使われていました。飛行場の殆どに芝生が植えられ、格納庫前面部分20mがコンクリート舗装されていまし



た。この部分を「エプロン」と称しました。また、操縦桿は「ストック」、方向舵を操作する踏棒は「フットバー」、エンジン回転を操作するレバーを「スロットルレバー」、慣性起動機は「エナシャー」等、全て英語でした。面白い事に、格納庫で月に1回上映される映画は洋画でした。

「大平原」「ジャングルの恋」「制服の処女」「商船テナシティー」「ボージェスト」など、初めて観る洋画でした。上映に際し上官は、「敵に勝つためには『己を知りそして敵を知る』ことだ!」と訓示しました。昭和19年12月戦局の悪化に伴い、谷田部航空隊には神の池の戦闘機部隊が進出して来たため、吾ら練習航空隊は山形県神町（現山形空港）に移動になりました。ところが積雪が酷く、一晩で50cm積る雪に飛行訓練は出来ず、屋内での体操やスキー訓練が始まりました。その後、訓練生のまま終戦を向かえました。山形で習ったスキーのおかげで、戦後はいち早くゲレンデスキーを始める事が出来、健康に留意して今日まで過ごしています。

私の独協生の頃

牧 豊

70年前、8年間の中国戦。4年間のアメリカ、イギリス、オランダ、との太平洋戦争に日本は完敗しました。我が国の多くの街が焼土荒廃の地となり、明日への希望も糧もなく、日本人は精神的虚脱状態に陥りました。昭和20年3



月の卒業式は無く、将来に何の光明も無い中、旧制専門学校へ進学するもその教室は荒れ、親友は出来ず思いに残るものはありません。しかしこの暗闇の中、独協時代の学友と連絡を取り合い、励ましあい、助け合って、その後の人生は面白く多彩になりました。当時の独協は名門私立校で、私の受験番号は千番代であり、よく入学出来たと思う狭き門でした。1年生の時には中国との戦争が始まっており、アメリカとの開戦後も軍事色は薄く、良き先生方の授業に勉学に励みました。教室には良い緊張感がありました。昭和17年、3年生から軍事教練と勤労奉仕が義務となり、国家総動員法の下に中学生も「戦力」と位置付けられて行きました。昭和18年、4年生時からは敗戦濃厚となり、空襲は日本全国に及びました。勉強したくても出来ず、戦火に友を失くし、家も失い、益々困窮深まりました。それでも厳しい統制の中、独協伝統の校風は救いでした。

現在の平和は本当に良き時代です。暖衣飽食の今、戦時下の生活は理解出来ないと思いますが、急な停電が長く続き、スマホ、パソコン、電化製品が使用出来なくなったら、通信基地局や中継局がテロで破壊された場合どうなるか！身の周りを見て、食料・家・学校・生命などが喪失の危機に直面したらどうでしょうか？自問自答してみることをお勧めします。

独協の伝統に誇りを持ち、勉学に裏打ちされた自信を持って、これからも研鑽してください。



笑顔で熱心に説明される牧氏



多数の来場者の説明に追われる佐藤氏と神山氏



左から ドクターズクラブ、歯科医師獨協会、サッカー部 OB 会



「獨協ぶらり旅」で紹介した5店舗
右は古稀を迎えた同窓生の集い

この企画は、獨協中学・獨協高等学校の卒業生が経営する「お店」をぶらりと訪ね、お店の様子を皆さんに報告するという新しい試みです。
皆様の周囲にも多くの獨協生が経営するお店や獨協生に親切なお店があると思います。
ぜひ同窓会までご紹介ください。地域で頑張る獨協生を応援しましょう！

笹乃雪（豆腐料理）

昭和 59 年卒業 奥村喜一郎さん

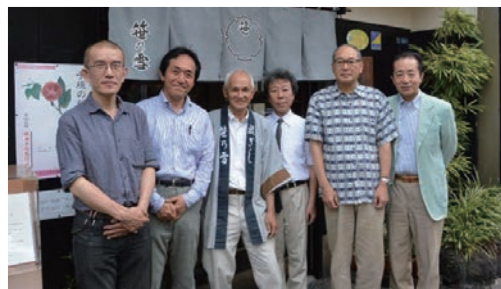
笹乃雪初代玉屋忠兵衛が絹ごし豆腐を発明。
元禄四年（約三百十五年前）上野の宮様（百十一代後西天皇の親王）のお供をして京より江戸に移り、江戸で初めて絹ごし豆腐を作り根岸に豆腐茶屋を開いたのが当店の始まりです。

宮様は当店の豆腐をことのほか好まれ「雪の上に積もりし雪の如き美しさよ」と賞賛され、「笹乃雪」と名づけ、それを屋号といたしました。その時賜りました看板は今も店内に掛けてございます。

当時の製法そのままに、井戸水とにがりを使用、昔ながらの豆腐の味は素晴らしいものでした。



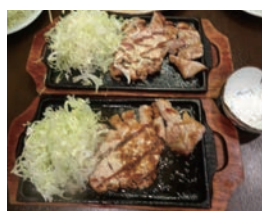
東京都台東区根岸 2-15-10
JR 山手線
「鶯谷北口」より
徒歩 2 分



かつー（とんかつ）

昭和 51 年卒業 長峰謙一さん

ご主人は、以前、「青山かつー」という有名な老舗で修業して、暖簾分けされたお店です。その秘伝を受け継ぎこの地でとんかつ一筋に専門店として頑張ってきたお店です。「とんかつ」は、油から揚げた後、約 3 分程余熱を加えてから出されます。食べ応えある大きなとんかつは、薄い衣がこげ茶色でとても香ばしいです。揚げ加減が良く肉厚なのに柔らかい、脂身は他のとんかつに比べて物凄くジューシーで旨いのです。こげ茶色のこんがりとんかつは、ご主人のこだわりで高温で短時間に揚げています。ご主人の同級生達は毎年ここでクラス会をしているそうです。



東京都 荒川区 東尾久 4-11-12
日暮里から舎人ライナーに乗り 2 つ目
赤土小学校前下車、徒歩 2 分
赤土小学校前駅から 223m



ル・リベール（ワインバー）

昭和 39 年卒業 杉山 恒さん

外には『本』と言う看板。そもそも本屋さんでした。だから店名は“Le Libraire” = 『本屋のおやじ』ということらしいです。店内に入れば壁紙、置物のセンスが抜群。あらゆる本がズラリ。一人で来ても本を眺めながら、ワインを堪能できる店です。個性豊かなご主人の趣味を表す店内を飾る小物たちは、いずれも優れもののコレクション。ご主人とおしゃべりしながらワインを呑むのが楽しいです。なんだか不思議なお店なのです。



東京都台東区根岸 4-1-29
営業時間
19:00 ~ 02:00 L.O. 2:00

東京メトロ日比谷線 入谷駅 徒歩 5 分
JR 山手線 鶯谷駅 徒歩 8 分
入谷駅を出て左折し、金杉通り（旧電車通り）に出たら三ノ輪駅方面に向かって三軒目。『本』の看板が目印。



演劇部ふたたびソウルで上演

演劇部顧問 柳 本 博

獨協演劇、大陸へ。演劇協会の招請により、韓国の全国大会に日本代表として参加（韓国各地域の代表に日本代表は本校のみ特別出演）してまいりました。2009年以來6年ぶりの再訪。あとき情熱的に願った、もう一度ソウルで上演したいという夢がかないました。願っても実らない情熱も多い中、幸運です。

ところが、情勢はすこぶる変わりました。情熱と情勢。字は似ているものの、我々を取り巻く情勢は真逆に。反日ムードの高まりと、我が国の嫌韓ムード。昨年はセウォル号沈没事故、今年は致死力の高い伝染病MERSの流行など、高まっていたはずの日韓交流の波はスーッと潮が引いてしまっています。そんな矢先の韓国からの招請。校内からも懸念の声は上がりました。しかし私は初めて訪韓して以来、アジアのイタリア人とか大陸の関西人と呼ばれる明るく気さくな人柄に魅せられ、毎夏、他校の演劇部員を引率するかたわら交流を定着させてきました。今回は全編日本語ながら、明るくスピーディーな獨協演劇を、という目論みのもと上演したオリジナル作『真夏のジェッツ』。ハンドル部分だけを手に、自転車レースを体現。東京中を縦横無尽に疾走していくスピード感あふれる群像劇です。お盆休みの8月16日、ソウル駅裏手という超

一等地の新劇場（国立劇団ペクチャン劇場）にて上演。さて、その首尾やいかに？

反日感情、伝染病の影響、ともにゼロ。食い入るように見つめる韓国の若い観客。温かい笑いと反応。終わった後の拍手と歓声、嬌声に手拍子。場内の熱気をどう形容しましょうか。イチロー選手が日米4000本安打を放った時のヤンキースタジアム？ ラグビー日本代表が南アを破ったときの？ 手前味噌ながら、当日のカーテンコールはそれらに優るとも劣らない至福の瞬間でした。ドッキョー・フロム・トーキョー、ジャパン。異国の若者の心に深く刻まれたはずです。訪韓にあたりまして、ご支援いただきました同窓会の皆様にも厚く厚く御礼申し上げます。本当にありがとうございました。



韓国最優秀賞の女子高とともに

カイザー報告

柔道部顧問 萩 野 元 祐（S49年卒）

ドイツとゆかりの深い本学、その132年の歴史の中で初めてといつてよいスポーツ交流が本年7月29日、本校に於いて行われましたことをご報告させていただきます。交流試合の相手はドイツ、カイザーズラウテルン市にある柔道クラブです。

2013年のカイザーズラウテルンと文京区の姉妹都市25周年記念事業の際、カイザーズラウテルン工科大学で柔道クラブ対象の講習会があり、私とその講師を務めさせていただきました。その際に大変お世話になった、カイザーズラウテルン市在住でピアニストとしてヨーロッパを中心に活動され高い評価を受けてらっしゃる、祥子＝古畑ケルスティンクさんから学校間の文通、柔道での交流のお話を頂きましたのが始まりでした。古畑さんはカイザーズラウテルン市の国際交流協会、文京区担当でいらっしゃいます。

来校されたメンバーはクリスティーネ団長、指導者・クリストフ氏をはじめ男子9名、女子7名の合計18名。年齢層は14歳から59歳と幅広い構成でした。

全員が試合を希望され、本学柔道部も部員の他に高田正道副会長（S55年卒）、水村宗君（H27年卒）の二名OBの出場を要請しました。試合は白熱した試合が多く展開され、中でもドイツ国内ジュニア大会男子90kg級5位のライオン選手と水村君の試合はまさに国際試合ともいふべき迫力あるものでした。

試合後はOB会からの記念品贈呈、プレゼント交換、記念撮影。私もクラブ員一人ひとりと写真に納まりました。音羽のロイヤルホストでのOB会主催の歓迎昼食会と、皆さんは今回の交流に大変満足されて獨協を



後にされました。

古畑さんからは来年3月、柔道部のカイザー訪問、交流のお話をいただいています。今後も本校とカイ

ザーのさらに交流が発展していくことを願ってやみません。

歴史研究部

歴史研究部顧問 兼田信一郎（S52年卒）

歴史研究部は、すでに20年以上活動が続いているクラブです。毎年共通のテーマを決め、秋の獨協祭で調査の成果をまとめて発表する事を中心に活動してきました。

本クラブが2015年度のテーマとしたのが戦争です。それは、今年が戦後70年目にあたる年であり、改めて戦争のことを考えるべきという思いからでした。そして、中・高校生に関心を持ってもらうにはどうしたよいかと考えた結果、大戦期を獨協中学校生として過ごされた方々のお話を伺うことで戦争を考えるきっかけにしようということになり、テーマを「第二次世界大戦下の獨協」としました。

さて、ではどのようにすれば当時の中学生の方々に会えるのか、この件を常任幹事の中村昭美氏にご相談したところ、常任幹事の黒沼昭夫氏をご紹介いただき、3月に黒沼氏の同窓の会合にお邪魔して、歴史研究部の趣旨をお話しし、全面的な協力をいただくことになりました。

その後、昭和15年入学の方々の傘寿記念文集『芽城会 傘寿の記念』（平成20年5月発行）をお借りし、いくつかの手記を部員全員で読み合い、文章中の今で

はわからない言葉を部員が手分けして調べました。

そして8月21日に、同窓生4人の方々（黒沼昭夫氏、畦森公望氏、牧豊氏、佐藤徳重氏）においでいただき、「戦時下での獨協での勉強・学校生活」「勤労働員と空襲下の生活」「戦後の就職などの苦労」という3点を中心にお話を伺い、生徒からの質問にも答えていただきました。同窓の方々のお話しと質問の時間などをあわせて約3時間にわたり貴重なお話を伺い、その内容が今年の獨協祭での歴史研究部の発表となったわけです。（1ページ参照）

今回、部員たちがこのような大変貴重な経験ができたことは本当に素晴らしいことでした。戦時下の死と隣り合わせの過酷な状況の一端に触れ、部員は率直に驚いていました。また、先輩方が口をそろえて「獨協は本当にいい学校だ。」とおっしゃられる中に、獨協に対する限りなき愛惜と獨協のよき「リベラルな伝統」を受け継いでもらいたいという思いを強く感じました。

今回このような活動ができたことに関して同窓会をはじめ多くの皆様のご協力を賜り、本当にありがとうございました。謹んでお礼申し上げます。また、機会がございましたら様々な同窓の方々に獨協生だったころのお話を伺えたらと思っております。その際はどうぞよろしくお願いいたします。

今年の古希の皆さんを紹介します

今年、平成27年に古希を迎える卒業生は、終戦の昭和20年生まれ、昭和39年卒（第16回生）です。その同期会が、6月7日（日）に帝国ホテルで開催され、ミセスを含め約50名が参加しました。席上、“初めて会った”ような顔と顔で、シラケるやら、盛り上がるやらで、卒後51年、人生70年を各々かみしめながら、結果的には大盛会でありました。

来賓として、恩師の上林英雄先生、本田稔祐先生、横山武人先生、吉田卓司先生の方々のご参加を頂き、また、同窓会からは、浅野会長と古希を迎えた柳原副会長が出席。ご挨拶を頂いた後、いつものようにワイワイ、ガヤガヤ喧騒の中、再会を約して散会。

残念なことは、同期会後、約3週間後にこの会の発足、中心的役割を果たしてきた、同窓会年度幹事だった田村 宏 君

が急逝。既に、物故となられた方々に対してと共にご冥福を祈ります。あ～70年、70才。

写真中、前列左から3人目から右へ、横山先生、本田先生、上林先生、吉田先生、浅野会長。2列目左端、柳原副会長（文責）。



昭和 19 年卒ドイツ語組 獨協五三会

今年、全員が米寿を迎えたので、その祝いを兼ねて恒例のクラス会を、平成 27 年 11 月 11 日に東中野の日本閣で行いました。

高齢のため、なにかと支障がある会員も多く、会の今後の在り方について解散も視野に入れて相談したところ、全員の意見で続行と決まり喜ばしい結果となりました。しかし今回はあいにくと出席者が付き添い 1 名を含む 8 名にとどまり、宴の賑わいが心配されていたのですが杞憂に過ぎず、かえって今までにないほどの盛会となりました。それは、前にもこの欄でご紹介した長尾君の付き添い兼会務の助っ人として毎回参加される宝塚音楽学校出身の小乙女幸さんの絶妙なリードによるもので、歌姫のいるこの華やかな賑わいは、何物にも代えがたい大きな楽しみとなっています。小乙女さんから、嬉しいことに参加者全員に米寿祝いのバラの花が贈られました。参加者が年ごとに減少するのはやむを得ないことながら、なんとかそれを克服する工夫をこらし、この楽しいシニアクラス会を続けていきたいものと念願しています。

獨協時代の思い出話、趣味、健康問題など大いに語り合った後、高らかに校歌を歌って青春を偲び、来年の再会を約して散会しました。（幹事 原 和夫）



昭和 25 年卒ドイツ語科 大豆会

大豆会は平成 27 年 10 月 8 日（木）、例年のごとく霞が関ビル 35 階レストランケヤキで開催された。出席者は昨年より 2 名減り 11 名であった。昨年 12 月に北條 浩君、本年 3 月に吉田 隆史君が共に宿病に倒れ、2 名の常連を失ったためである。まことに悲しいかぎり、心から両名のご冥福を祈るのみである。

今回は、赤羽の兵器補給廠へ動員されたこと、飢餓にさいなまれた思い出からはじまり、果ては恩師達を抜き下ろして時を忘れた。今は亡き諸先生も、草葉の陰で微笑し許して下さいさるであろう。一見元気で出席した者も、ほとんどが多病息災、なんとか現状を維持

して来年も再会できるよう励ましあって散会した。

来年は 10 月 6 日（木）開催。（本田光芳 記）

出席者：後列左から、中村雅美、斉藤義治、石川 洋、中嶋眞治、松田 務、染谷 尚

前列左から 西田隆一、高橋邦武、平澤精一、本田光芳、本田蕎子（敬称略）



昭和 30 年卒 ミニ・クラス会

平成 27 年 6 月 29 日池袋東武デパート内のレストランで昭和 30 年卒のミニ・クラス会を開催しました。出席者は以下の 6 名でした。

沢辺省三 野村恭弘・長畑茂・吉野実・甘楽規矩司・森田孝（写真手前より時計回り）

話は終始大変なはずみ様で、特に一部の人は 60 年振りの再会とて、目の前に料理が出ているのに昔話などに夢中で箸もつけないと云う様な有様でした。今回はごく少人数の集まりでしたが、次回以降は 30 年卒の人の輪を広げて行きたいと考えています。（野村・記）



昭和 31 年卒 ドイツ語科クラス会

平成 27 年 6 月 24 日、クラス会を有楽町〈ねぎし〉で開催しました。恩師富岡近雄先生は、体力的に会への参加はまだ無理な様子で今回も欠席されました。最近では体調もずいぶん回復され 7 月にはお住まいの近くにある区の介護施設にご夫婦で初めて 1 泊のショートステイを計画されているとお話でした。今回会場になった〈ねぎし〉は、オーナーがメンバーである日比谷君と家族ぐるみのお付き合いの仲だとのことでした。

TV 番組、カンブリア宮殿のなかでオーナーは「経営は現場の全員で協議、実行し、自分たちが経営者であると実感することが重要である」、企業戦略は「親切」すべての人達すなわち、ゲストだけでなく一緒に仕事をする仲間たちに対し親切であることと語られていました。

そのようなすばらしい理念で経営されている〈ねぎし〉に集った人員が予定していた人数より大幅に少なくなってしまう、4名。我らの年代になると年相応の身体的理由での欠席者が続出。なかなか会えないクラスメートの顔を見たい、話をしたいとのことから、今回は1人でも多くの出席を願い、話し合いの結果 参加のむずかしい会員に自身の自宅周辺での「会場」「日時」を計画してもらう「会場持ち回り」を取り決めました。あわせて「獨協同窓会」からの寄付の呼びかけに、寄付文化の定着の一助として「昭和31年卒ドイツ語クラス」として金一封を送ることを決定しました。

以上の取り決めは後日、今回欠席の会員全員に電話で連絡、全員の賛同を得ましたので会場持ち回りは字会「新年会」より実行していききたいと思います。

話が飛びますが、この度の統一地方選挙で獨協同窓会の幹事役の労を取っていただいていた深谷光篤氏（昭和58年卒）が都議に当選され、獨協卒の一人としてお祝申し上げ、今後のご活躍を大いに期待しています。（幹事・山口眞護）



第7回 杉並獨協会

2年振りに平成27年8月22日、荻窪の東信閣で開催。出席者は昭25卒の和田雄幸先輩から昭56卒



の伊藤敏行君まで17名。戦後70年の節目でもあり大先輩からは教練の思い出やイモカン先生のこと、戦後の学園の様子など興味深い話が披露された。出席者からの近況報告が続き、昭54卒現杉並区長・田中良君から区が抱えている諸問題や将来ビジョンなど興味深い話があった。若い会員に出席を呼び掛けること、地域に役に立つ活動することなど会の運営に対する要望もあり、楽しく元氣な獨協人の集まりだった。

（世話人：昭35卒金有一、昭54卒長田茂）

昭和38年卒英語科 英語クラス同期会

今日は江戸時代から続く隅田川の花火大会の日、うだるような暑さとも、1年半ぶりに再開する。恒例の38年卒英語クラス同期会が、平成27年7月25日、例年とおり上野公園内「韻松亭」にて開催され6名が集う。今回の話題の中心はEさん。自らの診療所を閉鎖し、完全にリタイアした人だ。彼曰く「いままでの忙しさから解放され楽しい日々を過ごしている」と。合わせて、診療所を閉鎖する時の従業員、患者の気持ちの推移と行動を語りながらも、そこには第2の人生に出発する輝きがあった。また、再就職の人もいて、多様な人生がここにもある。話は発展し、大学の医局と個人医院との交流を妨げている医療行政と世相や時節を反映して新聞論調の過去の反省のなさの指摘、いや、国際協調が優先であるなどの指摘、さながら各人は新聞主筆である。かのように、青春だけ暗き夜空の花火を直接見ながら散会となる。（辻 定利・記）



古川 38 会

今年10月3日高輪和彊館にて古川38会を開催いたしました。なんと10年連続の開催です。今年は横山武人先生を招待し総勢25名の出席となり、過去最大数となりました。この会は亡き古川先生が昭和35年より昭和38年まで3年間担当されたクラスで、かなり先生を悩ませた悪童の集まりでしたが、そのことがかえって今になり団結を強くしているのでしょう。会の始まりに西田君のご逝去の知らせがあり、黙とうしご冥福を祈りました。その後横山先生のご挨拶をい

ただき、全員一人一人挨拶。横山先生は本年 80 歳の傘寿となられ、滑舌も良く、68 歳の我々と年齢が変わらないほどでした。また今回始めて出席されたのは中島さんと遠い下田から長田病院の長田君のお二人でした。卒業以来 50 年余りになりますが、会が始まり 10 分も経過したら過去に見事にタイムスリップし和んでいただきました。来年も開催いたしますので、本年ご欠席の方々は是非ともご出席ください。

(文責 遠藤)



昭和 40 年卒ドイツ語クラス 獨新会

我々が卒業して丁度 50 年の節目となる今年は、11 月 13 日(金) 18:00 より、上林先生と小平先生をお迎えして、「赤坂クラブ」において開催いたしました。この「赤坂クラブ」は赤坂にあり、フランス人の父「ル・ジャンドル」と芸者の母「糸」との間に明治 7 年に生まれた 15 代目市村羽左衛門が、生前に稽古場兼住居として使用していた由緒ある跡地にあります。忙しい合間を縫って、総勢 16 名が集いました。

半世紀も前に僅か数年獨協に非常勤講師として教鞭を執られていた恩師・國松昭先生が、平成 24 年 1 月 27 日早朝に心臓麻痺にて急逝されておられました。國松先生の誕生日に、喜寿のお祝いを開いた翌年のことでした。開会に当り、この報告と共に一分間の黙祷を捧げました。改めてご冥福をお祈りいたします。幹事の不手際によるこの情報入手の遅れを、反省することしきりです。お詫び申し上げます。

例年通り各々の近況や同朋の情報などの中、両先生の在職時代の話に、皆夢中になり耳を傾け、大いに盛り上がりました。来年に古希を迎える歳にもなると、やはり健康の



話が主流になるのは止むを得ないことなのかもしれません。また来年、皆元気な姿で再会することを誓い、閉会いたしました。(記：桜人)

昭和 41 年卒 獨協 1 月会 50 回

獨協 1 月会 50 回を平成 27 年 1 月 17 日(土)に開催しました。

場所：新井薬師液前 Eiht 894 Tel 03-6454-0322

今回の幹事は中村が会のメンバーの藤井哲夫君のご子息のお店で開催しました。

出席者は、河崎達彦君、小杉喬志君、斎藤幸一君、下村博一君、藤井哲夫君、堀江重之君、福島達彦君、森田芳和君、吉田均君、長村洋君、と中村の 11 名で年 1 回の現況報告をして、欠席者の現況も話の中で花をさかせていました。

今回は、名古屋から久し振りに吉田均君も参加してくれて、卒業以来の再会を喜んでいました。今年は 2 月に母校で中学 1 年、高校 1, 2 年生を対象にキャリア教育講座を開催し大盛況で無事終了しました。卒業以来毎年 1 月に開催しておりますが、まだまだ続く限り続けて行こうと参加者から毎年意見があり来年も開催する事を確認して解散しました。

我々の会は獨協中学の主幹の神田直人先生の教鞭をいただいた仲間なら誰でも参加を受け付けておりますので同窓会室に連絡してください。

今回は藤井君がやはり西新井薬師駅前で「餃子屋」で店をやってます、夕方から夜のみの開店ですが、近くにもし寄られることがありましたら寄ってみてください。来年は平成 28 年 1 月 16 日(土)に開催予定場所はまた追って連絡します。(幹事：中村昭美)



昭和 41 年卒 ミニクラス会

昭和 41 年卒 ミニクラス会を平成 27 年 1 月 31 日(土)に開催しました。場所：有楽町 中華 慶楽

この会の幹事は平岡君で昭和 35 年中学入学時 1 組神田直人先生と 2 組栗原幹夫先生のドイツ語と英語の混合クラスです。

今回の出席者は昨年同様 14 名と参加者が 2～3 名かわりましたが学生時代から 40 年ぶりに再会する人

もいて、名前を聞いて「えっ」と思っている人もいました。毎年この会は夏にも開催しております。この2・3年で出席メンバーが2名～3名と入院したり急逝したりと参加出来ない。半年なら皆さんの無事を確認出来るので開催しているとのことです、でも幹事の平岡君は、まだまだ参加者が少なくて苦慮しておりました。でも獨協時代に戻って話に、思い出に花を咲かせていました。参加メンバーの横山君から神田クラス会と合同でやりたいとの話があり平岡君と奥田君が話合って開催して欲しいといわれました。

2年後は我々も古希をむかえますのでその時に開催を企画したいと思います。その時には多数参加していただくようよろしくお願いいたします。

今回も中村が記事を書かせていただきました。なお、ミニクラス会の参加を希望される方は同窓会室にご連絡ください。
(幹事：中村昭美)



昭和 41 年卒 独協中学 3 組 クラス会

平成 27 年 11 月 7 日（土）に成川君が経営するヴァージンカフェ品川にて独協中学 3 組のクラス会を開催しました。前回のクラス会が平成 26 年 11 月 8 日でしたのでちょうど 1 年になります。その一年の間に小室君、水野君が亡くなったという悲しい知らせで始まった今回のクラス会は 3 組の出席者は 10 名だけでしたが、1 組と 4 組から 4 名の出席があり横山先生を含めて 15 名の参加者となりました。横山先生は今年傘寿を迎えられましたが、とても 80 才とは思えないほど若々しくお元気です。まったく気を使わない仲間との楽しい話であっという間に 3 時間が過ぎ、来年も元気で再会できることを願って散会となりました。出席者は前列左から 中村（直）、三本木、中村（修）、渡辺、



行徳、後列左から清水、渡部（4 組）、佐伯、小林、成川、横山先生、武井（1 組）、三輪（4 組）、中沢、横山（4 組）
(渡辺 岳・記)

S 41 年卒 38 年 1-3 系井会

今年 8 月 29 日（土）、椿山荘タワー棟「さくら」にて、昭和 38 年 1 年 3 組のクラス会「糸井会」を開催しました。2 年間のブランクを経た久々の再開でしたが、何よりお元気な糸井先生にお会いする機会をもつことができました。西山君による乾杯の発声で一気に盛り上がった後は、それぞれの環境変化を報告し合いながら、いつも通りの和気あいあいのひと時。既にリタイアした者、現役バリバリの者、海外在住の者、病氣療養中の者等現在の環境の差異はあっても、獨協在学当時の気持ちに戻れるところがクラス会の成せる技というものです。当日は土曜日とあって、丸山、小田原、大原、松永等々のドクターとして現役の面々は残念にも参加できず、曜日調整が次回の話題となりました。写真は前列左より 斎藤（旧姓中里）、田島、糸井先生、伊藤（新）、素木、杉田
二列目左より 関根、黒川、西山、関、佐野、阪田、
3 列目左より 細谷、福島。（文責／伊藤 新）



昭和 42 年 高校卒のOB会

今年 5 月 21 日（木）、神楽坂・理窓倶楽部にて昭和 42 年高校卒のOB会を行いました。本OB会は、平成 20 年 3 月還暦を迎え同窓会を行なった時の幹事が中心となり、独語・英語クラス併せおよ



そ 20 名が参加して年 4 ～ 5 回懇親会をしているものです。

今回は、アサヒビール O B ・須藤明弘君が東京理科大学の食堂アドバイザーをしている関係で理窓倶楽部を紹介して貰い、場所を設定しました。

当日は、小林優元君が高校卒業アルバムから抜粋した出席者の顔写真の書類を作成してくれたので、各自この当時の思い出をスピーチしました。大学進学悩みや女学生とのつきあいなどが話題となり、さらに先生宅を訪問して酒をご馳走になった (!) などのエピソードも出て、楽しいひとときを過ごしました。

この会では、「古希に合わせ、また同窓会を行なおう」という話が出ており、実行に向けこれからの準備をしていく予定です。(野澤 正：記)

昭和 49 年卒 (3 組) 金有一先生クラス会

今年 10 月 24 日、昭和 49 年卒 3 組のクラス会が金先生をお迎えして原宿南国酒家にて行われました。今年は私達卒業生が還暦を迎えるにあたり、金先生より全員に獨協のマークと還暦を祝した言葉が印刷された赤色タオルもプレゼントされました。人生ピークはまだまだ先との確認をした素晴らしい会でした。



昭和 49 年卒 有志 還暦祝い

今年 6 月 13 日 (土) 3 組 滝沢君が中心となり、写真の通り 13 名が集い箱根で温泉を楽しみました。久々に会う仲間もいます。昔に帰って一杯やりませんか? ご参集頂ける方、ご連絡をお願いします。

連絡先 090-1538-6810 滝沢弘明



昭和 49 年 4 組 還暦お祝いクラス会

平成 27 年 10 月 31 日 (土)、新宿「土佐料理 祢保希」にて 3 年 4 組のクラス会が 3 年振りに行われました。我々昭和 49 年卒は今年還暦という記念の年であり、このお祝いのクラス会にご出席いただきました。我らの主管石井先生から、当日出席したクラスメイト 15 名にご祝辞をいただきました。41 年前の昔話に花が咲いたのは言うまでもありませんが、今年は還暦という節目の年に当たりもっぱらの話題は、定年、再雇用、自身の健康、そして子供のこと、孫が生まれたことなどなど…。さらに石井先生から、60 歳を過ぎてからが楽しいとお話もあり、これから始まる『60 代の青春』に希望が湧いてくるような大変盛り上がりを見せたひと時でした。次回は 3 年後、そして 5 年後に迎える石井先生の喜寿のお祝い会開催を約束して中締め、そして全員参加の 2 次会場へと移動して行きました。(記：清水規夫)



昭和 53 年卒 西の市五三会

今年も恒例の「浅草西の市五三会」が開催されました。11 月 29 日 (三の酉) の前夜 28 日に田原町「日本海」で宴会を催し、その後、鷲神社に向けてくり出して、日が変わり 29 日になるのを待って参拝しました。三の酉ということもあり、ここ数年と比べかなりの賑わいでした。飾り熊手を購入した者のご祝儀ははずんで三本締めで盛り上がる一幕もあり、皆、家内安全・商売繁昌を祈念して散会しました。(鈴木 記)



昭和 53 年卒 獨協ハーフ会開催

今年 9 月 19 日 (土) に恒例の獨協ハーフ会 (昭和 53 年獨協高校卒業生有志の会) が上野精養軒にて開催されましたのでご報告致します。当日は富岡 卓先生を囲み 15 名の同期が集い楽しく飲み語らいました。白石 宏志・市川 秀一両君など初参加組もいて近況報告などなど話は尽きず、楽しく語らいました。

我ら一同 55,56 歳になり残りの人生 後 55 年あるとは あまり考えられません、『人生ハーフ』残りの人生楽しみましょう。皆さん来年も同時期お声がけ予定です、またお会い致しましょう、お元気で??

幹事 西原 由恭



昭和 54 年 4組クラス会

今年 9 月 27 日 (日)、中央区佃 (月島駅徒歩 5 分) の中華レストラン「麗江 (リージャン)」にて、昭和 54 年卒クラス会 (主管 故原田恒久先生 4 組) が開催されました。当日参加者は 14 名。幹事は高安晃君と私。久しぶりの再会で大変盛り上がりました。店は私の妻が経営しており、支配人は妻のいとこで獨協ドイツ語クラス (主管 神田先生) 昭和 51 年卒の尾形嘉保さんが勤めており、酒・料理等も満足していただけるサービスを提供できたものと思います。機会があれば同窓の皆様にも是非お立ち寄りいただければ幸いです。なお、来年の幹事は白川元章君です。

(文責 田中良)



昭和 56 年 5組クラス会

当初は主管の児島康夫先生の古希のお祝いとして企画されましたが、所用で先生のご都合がつかなくなり、クラスメイトだけでの開催となりました。平成 27 年 10 月 31 日池袋ホテルメトロポリタンにて、出席者は 15 名。卒業以来初めて参加の級友もあり、時を超え、高校時代を懐かしみながら、楽しく旧交を温めました。それぞれの分野で皆活躍しており、獨協学園らしさを再確認したひとときを過ごしました。これからもクラス会は定期的開催したいと思いますので、今回、都合で参加できなかったクラスメイトも、次回は来て頂けるよう、心から願っています。



昭和 60 年 5組クラス会

今年 7 月 11 日 (土) に主管田村先生をお招きし、クラス会を四ツ谷「嘉賓」で開催しました。

1 年振りに、お元気な先生と 50 歳を目前とした中年生徒 (ややくたびれ気味) が続々と集まりました。

このクラス会は連続しての開催は今年で 7 年目となります。卒業 30 周年ということもあり、今年は特別な場所かと考えていたのですが、幹事の準備不足で例年と同じ場所での実施となりました。その後、これまた例年と同じジャズバー「いーぐる」へ繰り出し、深夜まで昔話・ぐち・悩み・笑いが続きました。

その後、元気なメンバー (5 名?) はタクシーに乗り、どこかへ消えていきました (この齢で、深夜遊びは翌日に響くのも無理です・・・幹事)

先生を含め 13 名のメンバーが集合しましたが、例年参加している辻洋介君が今年は怪我をし、入院のため



の欠席となりました。退院したら臨時クラス会を設定することとしました。早期に臨時クラス会が開かれますように。

平成27年 松本歯科大学獨協会

平成27年の獨協会の開催は 例年どおり神楽坂のかぐら坂志満金にて、平成27年8月22日（土）に於いて開催致しました。当日は2つの台風が日本に接近する中、おだやかな天候になり参加者に幹事一同ほっといたしました次第です。

真砂会長（S47年高校卒）の開会挨拶にはじまり、活動報告および庶務報告終了後、高橋（文）先生（S46年高校卒）発声により乾杯となり、歓談がはじまりました。

歓談においては普段の歯科診療や友人知人の動向やプライベートな話しなど、話題は多岐にわたり大いに盛り上がりました。

出席者全員、例年ウナギの不漁が懸念される昨今、昨年並みにキープされたウナギ蒲焼に舌鼓を打ちながら、一次会盛会のうちに副会長の敦賀先生（S48年高校卒）の中締めとなりました。

一部元気な出席者が二次会へ移動となりましたところで、本年の松本歯科大学獨協会はお開きとなりました。（昭和53年卒・橋口記）



慈恵獨協会

——— 新入生を歓迎して ———

平成27年6月27日、慈恵獨協会が東天紅新宿店にて開催された。慈恵獨協会は、獨協学園出身の慈恵医大同窓会員並びに現在、本学にて研修や勤務されている医師の同門会であり、現在110名を超える陣容である。また、金杉英五郎先生、名取禮二先生の2名の学長を輩出した同門会でもある。今回は、久しぶりに新入生を歓迎しての盛大な会であった。本会の発起人の永野允名誉教授に開会のご挨拶を賜った。引き続き、岩田正晴同窓会顧問に乾杯の発声とご挨拶を頂いた。また、世話人の景山茂特命教授より、新入生の長岡慈明君の紹介と同会の新監事に吉田清嗣教授の紹介が

あった。その後、参加者全員が近況報告を行った。参加者各位が慈恵医大と獨協学園に対する母校愛を共有できた事、また、先輩から新入生に対する医師としてのキャリア・アップ上でのアドバイスなどがあり、大変に有意義な会であった。本会は終始和やかな雰囲気の中で、参加者全員の活発な意見交換がなされ、明るく盛況な会であった。最後に、獨協学園校歌と前原光次郎君（平10）の迫真のエールで慈恵医大第一学生歌を全員で斉唱した。今後も多くの獨協学園出身の新入生を期待して、お開きとなった。参加者は次の通り、永野允（昭20）、岩田正晴（昭22）、景山茂（昭42）、樺島司（昭49）、稲葉敏（昭50）、渡辺直哉（昭53）、一志公夫（昭55）、遠藤拓郎（昭56）、富永伸徳（昭57）、江藤哲哉、大林豊（平60）、有廣誠二（平61）、吉田清嗣（平62）、前原光治郎（平1）、山崎憲、内山幹（平2）、加藤直樹（平9）、角藤律（平15）、長岡慈明（平26）以上19名。

（昭和56年卒・稲葉敏記）



萩野元祐先生還暦を祝う会

柔道部OB会有志

今年10月18日（日）、澄みきった秋の青空のなか、ホテルローズガーデン新宿にて「萩野元祐先生 還暦を祝う会」が開催されました。萩野先生ご自身が本校柔道部出身ということもあり、先輩方から「還暦のお祝いをしなくては。」と声が寄せられたことをきっかけに、実現への運びとなったものです。当日、遠路はるばる（他県勤務先から）、この日のために足をお運びくださったOBもおり、約60人が集まりました。



クラス会だより

また参加できなかったOBからは、心温まるお祝いのメッセージが多数届きました。

宴では各世代のOBたちが、全くお歳を感じさせない萩野先生（心技体において！）を囲み、昔の稽古の話に花を咲かせていました。その時の先生の微笑みに満ちたご様子が大変に印象的でした。

最後は、萩野先生より記念品を参加者にお配りになられ、固い握手を交わし無事閉会となりました。あっという間の2時間でしたが、先生を中心としてOB会の結束が一層強くなったことにはまちがいないと確信しました
（平成3年卒・豊島記）

野球部 監督就任 20 周年を祝う会

11月28日（土）、監督就任20周年を記念し、OB達が祝う会を開催してくれました。

70名ほどが駆けつけてくれ、とても賑やかに楽しい時間を過ごすことができました。みんな、ありがとうございます。次は長坂前監督時代のOB会と合同でやりたいと思います。
監督 淀縄哲之（昭和61年卒）



クラス会のお知らせ

昭和20年5卒 クラス会のお知らせ

独乙語科クラス会「芽城会」からのお願い。私達も卒後70年を経て、米寿とやらの宿駅に辿り着きました。その旅程は厳しく、多くの旧友達が夭折、或いは病に旅立ちました。芽城会が未だ体を成しているうちに、一つのケジメとして故人達の法要を営みたいと考えております。形ばかりの仏事ではなく、歴史を重ねる静寂な結界の中で彼等を偲び、いつれ行く彼岸での再会を約すことも私達の出来る供養かと存じます。

尚、この紙面を借り、造兵廠で共に油まみれた英語科諸兄のご参加も頂ければ同期としてたいへん有難いと思います。英語科諸兄の消息も絶えて久しいので一報頂ければ幸いと存じます。（芽城会 畦森公望）
英語科の諸兄 連絡先 獨協同窓会事務局気付
開催月 2016年4月

昭和39年卒 同期会

昭和39年卒同期会を、2016年7月3日（日）13時から、学士会館（神保町駅A9番出口前）で行います。71歳でまた会いましょう。

お一人8,000円 お二人（ご夫妻・親子）15,000円
幹事 柳原 080-1084-6629

卓球部OB会より

現在卓球部OB会は名簿を40年ぶりに再作成中です。短い期間でも一緒に練習した方、OB会からの連絡が届いていない方、最新の連絡先を同窓会事務局宛に郵便、FAXまたは『獨協中学校・高等学校ホームページ』にある同窓会公式サイトへメール送信から変更届け欄に「卓球部」と一言入力してお知らせ下さい。約70年もの成長を続けて来た我らが卓球部に皆で祝杯を捧げようではありませんか。ご連絡をお待ちしております。
（昭和47年卒・佐藤真人）

平成28年 クラス会開催予定のお知らせ

卒 年	会合名	日 時	場 所	幹 事
● 昭和20年	芽 城 会	4月予定	鎌倉 東光山英勝寺	畦森公望
● 昭和25年	大 豆 会	10月6日（木）	霞が関ビル 35階 レストランケヤキ	本田光芳
● 昭和39年	39会同期会	7月3日（日）13:00～	学士会館	大塚・加藤・柳原
● 昭和41年	獨協1月会50回	1月16日（土）	未定	中村

●小生も今年 93 歳となりますが幸いにもボケず趣味の音楽でオーケストラに入って楽しんで居ります。同窓会に出席しても私と同年代の方は殆どお見えになりません。故に出席しても話題に乏しい限りです。

＜小澤 武彦（昭 14 卒）＞

●お蔭様で昨年無事卒寿を迎えることが出来ました。戦前の旧制獨協中学から大学（慶大経済学部）に入学、途中戦争のため学徒出陣、復学、食糧難、就職難と日本人が自らまいた馬鹿な敗戦を味わい、その後一流会社に就職、退職と覚悟しましたが幸いセカンドオピニオンの先生のお陰で無治療で今日迄生きながらえています。見廻すと周囲の友人は彼岸に旅立ち孤独をかみしめています。最近歩行がきつく外出を控えています。が母校の発展を心より念じています。

＜桜井 保光（昭 17 卒）＞

●福井県へ戻って 70 年、送って下さる獨協通信拝見するたびに大変懐かしく拝見させていただいております。長期間に亘って送っていただきありがとうございます。卒業後何のご協力も出来ず申し訳なくおもっております。ここに些少ですが 10,000 円送らせていただきますのでご受納下さい。上記の項目には該当しませんので下記の通りです。福井鉄道株式会社本社職員（昭和 22 ～ 47 年）、越前焼工業協同組合事務局長（昭和 53 ～ 63 年）。（在校時は萩谷の姓）

＜谷野 龍夫（昭 18 卒）＞

●多少腰痛等があっても、日常生活に支障はなく、西の狭山丘陵や東の葛西臨海公園など散歩しています。獨協に学び、お蔭様でドイツ語圏に興味をもち、魅力ある都市ウィーン、ベルリン、ミュンヘンで多年公務につけました。趣味ながら接した特にドイツ語圏の文学、音楽等は今でもかなり心の糧です。

＜田村 康三（昭 19 卒）＞

●S 20 年卒業（英語 4 卒）の石井です。目下英語科の同窓会の幹事をしております。今年は（毎年）7 月 7 日七夕の日にトロワ工会と称して同窓会をしております。今年で 40 回になります。小田急ハルク 8 階のレストランに集って歓談、獨協時代の話に盛り上がります。戦時中とは申せど、野口先生、田淵先生、大久間先生、西村先生などほんとうに自由な気概を感じた 4 年間でした。獨協リベラリズムを心に浸透させた大切な大切な時でした。しかし、だんだん寂しくなりました。

＜石井 進（昭 20 卒）＞

●年金生活、妻を亡くしましたので近いうちに老人施設に入ろうと思っています。連絡先は変わらずです。

＜黒沼 昭夫（昭 20 卒）＞

●昨年 8 月現役引退、目下趣味三昧の日々（刻字、篆刻、鎌倉彫、水彩画等）健康の方は歳なりに小さな故障はありますが、毎日の様に外出もしております。

＜神山 一郎（昭 20 卒）＞

●お蔭様で今の所は老人介護もなく、学友との楽しい会合にも出席出来ています。それも学友である各方面の医師の方々のご指導のお陰であり、又学友との 3 ヶ月に一回の会合での交流により活力を与えてくれてい

ます。獨協の学友は掛替えのない同志です。感謝、感謝です。

＜牧 豊（昭 20 卒）＞

●この 4 ～ 5 年は歩行障害にて歩けなくなり苦勞しています。級友もさいきんは次々に他界いたし誠に寂寥の感この上もなく過しております。後は認知症の予防に努め、ドイツ語、四字熟語等々の記載等を行っています。ドイツ語の医学用語のスペリングは意外に良く覚えていて多少は安堵していますが…。

＜青井 保男（昭 20 卒）＞

●インターネットで見る獨協の百年など労作ですね。たのしく拝見しました。

＜米田 武（昭 20 卒）＞

●獨協通信 84 号に出稿掲載して下さり恐縮しています。びっくりしたのは、福島廣樹氏の講演でした。ぼくは福島氏より約 20 年古いサッカー部（当時は蹴球部）でした。戦時中なので練習、試合などの記憶はありません。昔の剣道場の脇にゴールがあって…。あとは兵器廠への動員とか富士の裾野で機関銃を撃つ演習など…。とにかくぼくはサッカーが忘れられず、東京外語へ進んでサッカーをやりました。サッカーが忘れられず中学生から大学生までの審判をやり、東京オリンピック（1964 年）のサッカーの役員をやりました。もちろん D . クラマーさんとも話をしました。福島さんのご健闘に拍手です。

＜藤富 保男（昭 20 卒）＞

●教職歴 30 年で大学を学部長で退職、名誉教授となった。在職中に九大など 5 国立大学、放送大講師、厚労省、科技厅、都などの委員会委員や関連学会の役員を務めた。著書は、単著、共著など専門書 80 部以上、中には北京大学より上梓されたものもある。これらの教育、研究功績により 20 年には瑞褒章叙勲、皇居で陛下の拝謁をたまわった。近年は腫瘍 2 回などで腹部手術 4 回行ったので次第に気力、体力の衰えが進んでいる。

＜細貝 祐太郎（昭 20 卒）＞

●小生今年 4 月に米寿を迎えると共に妻が傘寿を迎えました。これからも孫達にとって良きじじ、ばばとして一層健康に心がけて過していきたいと願っています。

＜平澤 昭彦（昭 20 卒）＞

●S 15 年から S 20 年迄戦争の真中で獨協生活を送った老医師です。今年で米寿を迎えますが、癌を含めて今迄 7 回手術をして現在も身体障害の身ですが、医療はしています。先日芽城会に出て久し振りになつかしい友に会い楽しかったです。

＜鹿島 正安（昭 20 卒）＞

●小生この 10 月に 86 歳になるスーパー老人です。実は小生昭和 17 年旧満州国からの編入生徒で、その頃軍事教官が配属されており訓練の毎日でした。あれから数十年母校も今日まで発展され喜ばしく思っています。

＜横井 弘幸（昭 21 卒）＞

●お蔭様で元気です。年の内半年は八ヶ岳の山荘生活で GOLF や農園で楽しんで居ります。この 2 月に実弟の写真家大倉舜二が亡くなりました。獨協時代に田渕行男先生を大変に尊敬して居りました。厚くお礼を申し上げます。

＜大倉 郁雄（昭 23 卒）＞

●最近、研究開発に関与した医薬品が、TV・PR 放送され、また、吉永小百合・主演映画「おとうと」（山

田洋次監督、笑福亭鶴瓶共演）で、女優の後ろに写っているシーンが再放送されました。地域で“くすり”の講演などを頼まれて、元気を頂き頑張っています。

＜栗原 忠聖（昭 23 卒）＞

●昭 25 年独語組 1 番で名前を呼ばれ唯一の親孝行をした。84 歳になるので自慢話はお許しあれ。亡父も先輩なのでメイドの土産話になる。

＜橘 繁泰（昭 25 卒）＞

●本人は病気で入院中です。＜東山 健吾（昭 25 卒）＞

●昨年傘寿を迎え停年となりましたが、再雇用で老健の施設長を続けています。昨年亡くなられた昭和 18 年卒の佐藤一郎先生は、私の前の施設長で、獨協順天堂大学の大先輩でした。同じく昨年亡くなった獨協高校 31 年卒の近藤元彦君は、順天堂大学の同級生でゴルフの良きライバルでした。祈冥福

＜渡辺 洋（昭 28 卒）＞

●昨年 80 才に成ったのを機会を期に退任しました。獨逸学中学を経て、獨協高等学校を卒業後日大歯学部卒業後、日大医学の解剖学の医局に進み、電子顕鏡にて、「脊髄 motoneuron の Principaldentrite の terminal bouton による平均触長について」の主論文により医学博士を授与されました。今は、陶芸、絵画、クルージング、犬の散歩に勤しんでおります。今でも獨協精神の影響を大切にしています。特に、天野先生からの講演で「ゲーテとの対話」は忘れられません。

＜福嶋 照雄（昭 29 卒）＞

●昭 30 卒の長畑 茂です。同期の大磯光弘君、宮井康行君、甘楽規矩司君、森田 孝君らと年 2 回の温泉 2 泊旅行を楽しんでいます。＜長畑 茂（昭 30 卒）＞

●4 年前に歯科医師獨協会を結成しまして会員数は 900 名程になっています。今年も平成 27 年 5 月 24 日に獨協高校小講堂で講演会を開催し、椿山荘で懇親会を行い、和気藹藹と親睦をはかりました。私は今世話人として頑張っています。＜滝川 国勝（昭 32 卒）＞

●元気に過ごしています。毎年 3 月 11 日に同期生数名と小島晋治先生を囲む会を開き先生の楽しいお話を聞かせていただいています。

＜青野 和雄（昭 32 卒）＞

●会社定年後第 2 の勤務先に於いて毎日フルタイムで働き、今、組合健保の卒業を迎え、新たに後期高齢者医療制度に切替、延 51 年間サラリーマン生活を続けています。

＜外川 勝久（昭 34 卒）＞

●TBS ラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」お陰様で 30 年目に入りました。皆様のご協力によるものです。

＜大沢 悠里（昭 34 卒）＞

●東京蒲田病院院長職以外は東京歯科大学監事、中央労災医員、蒲田医師会理事、日本泌尿器科学会教育局長、東邦大学評議員を拝命しております。

＜松島 正浩（昭 35 卒）＞

●年金暮らしです。区のボランティアで一人暮らしの高齢者見守り訪問人を 11 年間と町内会の役員を 10 年間続けて、毎日をそこはかと無く過ごしています。

＜深谷 菊夫（昭 35 卒）＞

●今年度中に会社を専務の息子に譲る予定です。私は地元で自治会の長として地域の活性化や法務局の保護司としての経験を生かし地元で努力し、更に北方領土関連で都の事務局長、内閣府の団体で推進委員をし、一昨年瑞宝双光章を受章致しました。

＜蓮池 攻（昭 37 卒）＞

●小島晋治先生の歴史学（先生は中国史）の影響を受けてその道に足を踏み入れて凡そ半世紀、なお道半ば日々史料の探索と分析との闘いを続けています。時には史料がこちらに歩いて来ることがあります。その出会いの感激は研究者冥利に尽きます。終わりのない道を歩いています。

＜益井 邦夫（昭 37 卒）＞

●39 年間地元の薬剤師会理事の会長を務め 71 歳になるので 2015 年退任しました。地域の仕事は若い人がなかなか引き受ける先生が少なく、薬剤師会の理事も高齢化が進んでいます。私は獨協の古希の集会に薬剤師会の行事と重なり、楽しみにしていましたが残念!!

＜小泉 勝暉（昭 37 卒）＞

●平成 27 年 3 月 31 日をもって蛭名診療所を元気なうちに閉院いたしました。＜蛭名 大介（昭 38 卒）＞

●37 年卒の 2 年先輩の高村精一さん、加藤昭さんが元気にしているか案じています。

＜佐藤 忠一（昭 39 卒）＞

●古希の会に出席しました。50 年振りの同期会出席。

＜宮田 雅則（昭 39 卒）＞

●第 18 回東京オリンピックが開催されたのが昭和 39 年 10 月。まさに世の中波乱万丈時代。卒業、同時に大学受験、辛かったその時を思い出し、今年平成 27 年古希をむかえることとなった。年とともに体調の変化はあるものの現役で頑張っている。千葉県柏市に開業して 35 年。立派な先輩達も大勢いるが後輩達もまた活躍している。誇りをもてる学校である。娘 4 人嫁もいるが後継はいない。私の代で終わる。孫は 7 人。幸せである。ゴルフは若い時はシングルであったが、老人ゴルフ。

＜池松 武臣（昭 39 卒）＞

●昨年妻が文化功労者に選ばれました。家族皆元気で過ごしております。これからも趣味に仕事に励んでがんばります。

＜大塚 克史（昭 40 卒）＞

●自院での診療は子供に任せ、JAL の御巣鷹墜落事故現場の無歯科医村、上野村で週に 3 日程診療を行っています。

＜森田 芳和（昭 41 卒）＞

●58 歳で医院を開業。丸 8 年が経過し 9 年目に入りました。開業当初の 3～4 年間は、宣伝不足がたたり千客万来とはいかず、無職に苦しみ、不如意な生活を送っていましたが、最近は徐々に来院患者も増加傾向となり、本来の姿であるべき地域医療に専念することが出来ています。最低でもあと 5 年は地域のために診療を維持できればと思います。

＜田丸 操（昭 42 卒）＞

●昔仲間の獨協生減るたびにやるせない気分になります。42 年卒が 59 歳還暦 1 年前に催した同期会、自然な笑顔に戻れたいい思い出です。42 年卒の同期会どなたか音頭とって下さって開催されると嬉しいのですがね!! 残念ながら連絡のとれる同期生が 4～5 人

しかおりません。一日生涯と思いつつ余生を楽しんでいます。
 〓篠崎 修 (昭 42 卒) 〓

●若葉会幼稚園→港区立青南小学校→獨協中学・高校→獨協大学→(株)極洋→(株)セブン・イレブン・ジャパン→独立→現在は、岳父の会社を守り7人の孫に囲まれ平穏な人生を送っています。半生を振り返ると、父の事業で辛酸を味わった時期に道をそれなかったのは、学友と担任があたたかく見守ってくれたお蔭と感謝しています。特に天野校長の講話で「自由とは、責任を伴うものである」は強烈な一言でした。

〓村上 喜代次 (順改め) (昭 43 卒) 〓
 ●獨協学園には10年間お世話になりました。同じ会社に42年間良く辛抱強く勤め上げたものです。2016年7月でサラリーマン生活にも終止符。その間肝臓がん手術5回。現在糖尿病でインシュリン接種中。2014年10月より松葉杖生活。現在『日本の前途を考える出版人の会』(準備会)立ち上げに奮闘中。1970年卒業1組ドイツ語クラスの懇親会をそろそろやりたいものです。

〓青木 秀夫 (昭 45 卒) 〓
 ●埼玉に戻り早や8年目となります。現在浦和ロータリークラブ所属。獨協出身が私を含めて3名おります。うれしい限りです。

〓武井 雅史 (昭 46 卒) 〓
 ●来年(2016年)中学入学50周年になるので、友情50年記念クラス会を企画しようかと考えています。プライベートでは孫(1才7ヶ月)の成長ぶりに目を細めております。

〓真田 毅 (昭 47 卒) 〓
 ●昭和58年より、障害者歯科に取組んでいます。今、多職種連携で訪問診療、摂食嚥下リハビリテーションで頑張っています。30年前からやっていますが、やっと仲間がふえました。

〓岩崎 克夫 (昭 48 卒) 〓
 ●昨年度より附属病院長を拝命しております。昨今の医療経営環境の変化に四苦八苦しております。皆様によりしくお伝え下さい。

〓松村 明 (昭 48 卒) 〓
 ●還暦を目前として、このところ中高の同級生と会う機会が非常にふえています。医師という仕事の中で年齢を重ねるごとに身体に支障が生じ、それを旧友に頼られて治療させていただけることは、至極の幸せに感じます。今後の人生の中にいつまでも獨協フレンドとの付き合いを大切にしていきます。

〓神田 良介 (昭 49 卒) 〓
 ●今年、還暦を迎えますが自分の経営するTV番組プロダクションで近現代史の番組(主NHK)を制作しています。

〓岩本 善政 (昭 49 卒) 〓
 ●新病院も設立から3年目になり、相変わらず多忙な毎日です。娘は高校1年生、息子は小学6年生で今年は中学受験で大変です。

〓野村 芳樹 (昭 54 卒) 〓
 ●昨年8月に京王線千歳烏山で内科クリニックを開院しました。駅より徒歩2分の立地です。

〓杉浦 宏詩 (昭 54 卒) 〓
 ●今は時々文章を雑誌媒体等にかかせていただいています。著書「嘘の人権 偽の平和」(高木書房)etc。出版としては「幻の祖国に旅立った人々」(高木書房)発行人

〓三浦 小太郎 (昭 54 卒) 〓

●卒業30年を過ぎ現在横浜市内で開業しています。高校同級生と3カ月に1度の定例飲み会していますがお互いの健康話で盛り上がります。

〓五十嵐直喜 (昭 58 卒) 〓
 ●足立区にて保険調剤 ライブ薬局を開局して9年になります。今年より二男が獨協生になり、親子共々お世話になることとなりました。

〓福澄 重泰 (昭 61 卒) 〓
 ●2009年より狛江市にてクリニックを開院しています。〓梶原 秀俊 (昭 62 卒) 〓
 ●茨城県稲敷市の精神科病院で副院長をしております。高齢化社会に突入し、認知症患者の受診が増加しています。

〓宮崎 優 (平 01 卒) 〓
 ●米国駐在から帰国後、観光関連の部署で訪日外国人観光客に関する業務を担当しています。母校の医歯薬進学とグローバル化の強化を希望します。

〓谷内 拓生 (平 02 卒) 〓
 ●獨協生としての誇りを持って、医学の分野で社会貢献できるように頑張っております。

〓羽鳥 英樹 (平 03 卒) 〓
 ●2014年4月より新宿区で開業(皮膚科)しました。開業してまだ1年ですが、自分のやりたい医療を日々実践しています。

〓小林 憲 (平 04 卒) 〓
 ●東京女子医科大学歯科口腔外科非常勤講師もしています。〓内山 博人 (平 04 卒) 〓
 ●島根大学医学部口腔外科にて臨床・研究・教育と充実した日々を送っています。機会があれば懐かしい目白台の獨協高校を訪ねてみたいものです。

〓菅野 貴浩 (平 06 卒) 〓
 ●長女は小6、次女は小4、長男は保育園の年長となりました。私は、係長試験該当年に達し、さてどうするものか。

〓藤島 一郎 (平 07 卒) 〓
 ●新潟に転勤して早もうすぐ6年。知らず知らず30代を越え、公私共に転機に想いを募らせ精一杯頑張っております。

〓松本 憲昌 (平 13 卒) 〓
 ●2010年より三菱商事ファッション株式会社上海支社へ赴任中。

〓中井 陽介 (平 14 卒) 〓
 ●千葉県の公立小学校に勤務、子どもたちと格闘する日々です。

〓堀合 智仁 (平 15 卒) 〓
 ●日本歯科大学院(本校)にて博士卒業論文に無い頭脳をフル回転。年に2回の学会発表、歯科アルバイト、塾講師。貧乏暇なしの毎日を送ってます。我が結婚はいつになる事やら!!

〓三浦 大輔 (平 16 卒) 〓
 ●東京医科大学病院で研修医2年目となりました。日々努力しています。

〓村松 孝洋 (平 19 卒) 〓
 ●米国ヒューストン大学大学院に在学中です。

〓服部 浩之 (平 19 卒) 〓
 ●現在、麻酔科医として日々勉強をし、精進しています。〓深見 隼人 (平 20 卒) 〓
 ●一浪、そして大学院進学いたしましたので、まだ学生をしております。就職活動が一段落しましたので、映画を見たり友人と飲んだりなどして学生生活最後の年を楽しんでいます。

●東京大学大学院工学系研究科航空宇宙工学専攻に無事進学しました。多忙な研究生活を送っています。

＜小島 隼一（平 23 卒）＞

●大学3年生になりました。省庁インターンや国家公務員試験の話をしている人が友人を含めて周囲に多く見られるようになり、大学院進学しか考えていない身としては少々肩身が狭いです。

＜相場 郁人（平 25 卒）＞

●獨協医科大学3年に無事進級しました。硬式野球部で頑張っています!! 夏の東医大の委員長を任されています。大変ですが、成功できるよう頑張ります!!

＜佐藤 政哉（平 25 卒）＞

●日本大学医学部3年に無事進級しました。サッカー部 A CLS 部で頑張っています。学ぶべきことは益々増え、四苦八苦の日々ですがとても充実した毎日を送ることに感謝しています。

＜佐藤 侑哉（平 25 卒）＞

●大学のオーケストラで音楽三昧の生活をしています。

＜藪 智明（平 26 卒）＞

●防衛大学校での生活にも慣れてきて、安定してきました。交友会と言われる部活動についてはラグビー部に所属し、大勢の仲間と共に練習に励む毎日を送っています。

＜大野 陽平（平 26 卒）＞

●東邦大学医学部2年となりました。解剖や実習などの激務の中、小説を読むのが一時的憩いです。進級できるよう頑張ります（笑）。

＜長岡 太一（平 26 卒）＞

●大学に進学して2年、自分の勉強したいことを見つけ、充実した大学生活を送っています。

＜インペトリス 瑠伽（平 26 卒）＞

●現在中央大学法学部在籍中です。

＜高橋 輝（平 27 卒）＞

●成城大学文芸学部国文学科に入学しました。

＜田中 基史（平 27 卒）＞

●卒業したばかりでまだ大学生活に馴染み切れていませんが、法学部生として日々励んでいます。

＜宮岡 暁良（平 27 卒）＞

●希望していた建築学科に在籍し、レポートや製作で忙しくも楽しい毎日を過ごしています。

＜幸田 雄太（平 27 卒）＞

●高校卒業後、志望大学への進学を目指して日々勉強に励んでいます。また、健康管理にも気をつけてしています。

＜坪井 祥（平 27 卒）＞

●奈良県から来た友人と共に日本語を学び、中国人留学生と仲良くなり、吹奏楽部に入部する。大学生活は予想もしなかった形で始まりました。

＜高松 慶（平 27 卒）＞

●獨協医科大学医学部に入学しました。管弦楽部に所属し、新しい生活に慣れてきたところです。

＜山田奏太郎（平 27 卒）＞

●大学に進学して一人暮らしをしています。近くの海岸で釣りも楽しんでいます。＜笠見 暁人（平 27 卒）＞

●大岡山で学生やっています。

＜村松 秀紀（平 27 卒）＞

●やっと大学生活にも多少慣れ、授業の予習・復習やサークルの活動、高校時代の友人との付き合いなど忙しくも充実した日々を送っています。

＜荒川 尚之（平 27 卒）＞

●私は成蹊大学に入学し、大学でも体育会蹴球部に在籍し、サッカーを続けています。また勉学でも特に英語には力を入れ、経済系統の勉強をしています。

＜加山 大雅（平 27 卒）＞

●今年の3月卒業、現在浪人中です。国立大合格に向けて日々励んでいます。＜阿部 悠人（平 27 卒）＞

昭和18年 第52回卒業記念アルバム 寄贈

11月、昭和18年卒業の医師 小関行徳氏（90歳）から、卒業記念アルバムが寄贈されました。戦時下、疎開先を転々とした中でもいつも大切に身の回りに置いてあったもの。今は各ページ毎に写真に撮られ、ハードケースで丁寧に装丁されたもので、そのカバーの上には「2603」（皇紀）の印。ページを開くと恩師や学友らとの記念写真がモノクロで大変美しく鮮やかに驚かされる。小関先生は、大正9年獨協卒の医師の父君から勧められ、獨協から医師の道へ。ご子息も、又弟君も、そして弟君のお二人のご子息も全て獨協から医師と云う、まさに「獨協ドクターズファミリー」である。創立60周年にあたるこの年の貴重なアルバムをいただきましたこと、紙面で改めて御礼申し上げます。

今後、同窓会での保管後、母校情報センターで永く保管されることになります。閲覧ご希望の方は、同窓会事務局にお申し出下さい。



右側上部の写真中
後列左端が小関氏

近藤市雄先生 ご逝去

10月2日、永年に亘り「獨協」の発展に寄与された近藤市雄先生がご逝去（99才）。

近藤先生は、昭和37年から、天野貞祐先生の下、獨協大学設立準備委員ご就任以来、同大学校医、その後獨協学園評議員・理事や、獨協中学・高等学校後援会 会長を歴任、今日の「獨協」に多大に貢献されました。ここに、獨協同窓会としてご尽力に、改めて感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

昭和20年卒「故根本達久氏の追悼文集」寄贈

「戦時下の獨協生」のお仲間で「芽城会」のメンバーの一人、医師 根本達久氏（千葉県香取市）が4月に逝去されました。88歳。11月、ご遺族奥様の根本郁子様から芽城会の記念文集「芽城会傘寿の記念」に添えてと、お申し出があり、70数年来のお仲間の同窓会監事の黒沼昭夫氏を介して、「根本達久の思い出」と題する追悼文集が同窓会に寄贈されました。

同窓会員を偲ぶ文集として同窓会事務局から母校情報センターに永く保管されることになりました。ご寄贈に感謝申し上げ、故人のご冥福をお祈り申し上げます。



86号（平成28年5月発行）へのご投稿をお待ちしています

内 容

1. 「コラムドイツ」… ドイツ語圏での幅広い体験記（仕事・旅行・生活など 1200字程度・写真可）
2. 「クラス会だより」・「クラブOB会」・「職域・地域会」などの報告（300字程度・写真可）
3. 上記各会の次回開催告知（100字程度）
4. その他「獨協の思い出」（800字程度・写真可）「獨協生のお店紹介」（300字程度・写真可）

締 切 平成28年3月10日（木）

1. 郵送先 〒112-0014 東京都文京区関口3-8-1 獨協同窓会 広報86号 担当
2. 送信先 info@dokkyo-mejiro.com

お問い合わせ 同窓会事務局（毎週 水・木曜日 13:00～16:30）

TEL 03-3946-6352 担当：鈴木・筒井

ご投稿いただいた文章への加筆・修正・一部削除などをさせていただく場合もあります。

なお、ご投稿文や集合写真などは、獨協同窓会ホームページにも掲載させていただきますので、予めご了承下さい。また、締切日を過ぎたご投稿分は掲載できない場合もありますので、併せてご了承下さい。

編 集 後 記

特集は「戦時下の獨協生」とした。きっかけは、母校歴史研究部のメンバーと同窓会員がコラボした同テーマをめぐる懇談会であった。更に、獨協祭の同窓会企画において展示パネルに獨協生へのメッセージとしてその主旨を活かした。折しも「安保法制」をめぐる国会審議の最中、タイムリーというべきか。又ぞろ、「平成の戦死者」などが生じないよう祈るばかりだ。11月には、創立60周年にあたる昭和18年の卒業記念アルバムと、戦時下の獨協生

で、昭和20年卒業の一人の追悼文集が相次いで同窓会に寄贈された。それぞれ貴重であり感銘させられる。大切に保管したい。初めて編集に携わり、次号はもっと早く正確にと心に期す。なお、文中「獨協」とか「獨協」の表記は、寄稿者の意向や時代背景などを考慮し、その都度任せていただいた。全ての原稿を掲載できず、反省中。さて、来年は悪いコトが申年に。どうぞ、みなさま良いお年をお迎えくだ申ように。昭和20年生、戦後70歳。（克記）